

【報告】法政大学 第6回 FDワークショップ
「PBLによる学びの改善—有意義な取り組みとは—」

7月2日(土)、小金井キャンパス西館地下1階マルチメディアホールにて、第6回FDワークショップ「PBLによる学びの改善—有意義な取り組みとは—」を開催しました。現在、多くの高等教育機関において、講義形式の授業とは異なる、学生の学習意欲喚起のための自律的、主体的な実践・参加型の学習機会を重視したPBL(Problem-based Learning/Project-based Learning:以下PBL)を用いた、教育支援が提案、実施されています。しかし、例えば、プロジェクトの課題の与え方、学習目標の達成のための的確な指導、成績評価等、PBL担当者が直面する問題点も数多く指摘されており、今後のPBLによる「教育の質」向上を考えると、単なる取り組みから、より多面的な観点に基づくPBL教育の本質を考え、また、各高等教育機関の特色に応じた、学生の自己学習にむけた「オペレーションシステム」の構築および評価方法の確立が求められています。

本ワークショップは、主に学内の教職員を対象とし、先駆的な学内外のPBLの取り組みの事例報告をもとに、今後のPBLを用いた「学びの改善」のためのFDの在り方について検討することを目的として企画され、理工学部・情報科学部・生命科学部・デザイン工学部との共催によりこのたび開催が実現しました。

総合司会は川上忠重FD推進センター長(理工学部教授)が担当しました。崎野清憲理工学部長の開会の挨拶に引き続き、同志社大学の山田和人氏(PBL推進支援センター長、文学部教授)をお招きしての「PBLは日々FD—同志社大学プロジェクト科目の場合—」と題した話題提供が行われ、参加者は同志社大学の事例として配付された資料を手に取りながら、山田教授のテンポの良い楽しいお話に熱心に聞き入りました。

続いて本学における取り組みを代表して、伊藤一之理工学部准教授による「ロボットを題材とした取り組み」、竹内則雄理工学部教授による「配当学年を考慮したPBLプログラムの構築」、高村雅彦デザイン工学部教授による「書を捨て町へ出たら、ポートフォリオに蓄積」、池戸恒雄情報科学部教授による「PBLとTop-down教育:問題点と対応例」と題した発表が続き、参加者はあらためて学内での事例を共有しました。

川上忠重FD推進センター長が司会進行役を務めた質疑応答・意見交換では、来場者からの質疑応答に基づき問題提起がなされ、話題提供者と来場者が一体となって、活発な議論が展開されました。

イベント終了後には西館1階ファカルティクラブに場所を移して情報交換会も開催され、引き続きFDやPBLに関する熱い意見交換がなされました。

第6回FDワークショップは他大学からの出席者もあわせて約60人の参加がありました。これからの本学におけるFD推進において、確かな手ごたえを感じるワークショップとなり、盛況のうちに幕を閉じました。

次回の第7回FDワークショップは、学内教職員限定で2011年9月15日(木)13:00から、話題提供者に山形大学教育開発連携支援センターの小田隆治教授をお招きし、市ヶ谷キャンパス外濠校舎S505教室にて開催を予定しています。

以上